かずやしんぶん

～津久井やまゆり園事件から 10 年～ 17号



2026. 8

尾野一矢さんについて



一矢さんは1973年3月26日座間市生まれ 53歳です。彼には重度の知的障害と自閉症があります。両親と姉の4人家族で一緒に暮らしていましたが、共働きの両親が世話を続けるのが難しくなり、中学1年生のときに障害児向けの施設に入所しました、そして成人してからは23歳のときに相模原市緑区の県立障害者施設「津久井やまゆり園」に入所しましたが、2016年7月26日、障害者19人が刺殺、職員2人を含む計26人が重軽傷を負わされる「相模原障害者施設殺傷事件」が起きました。犯人はこの施設の元職員で「障害者はいなくなればいい」と主張するなど、障害のある人を差別・排除する考えをあらわにしました。一矢さんも首や腹などに重傷を負いながらも何とか一命は取り留め、徐々に回復に向かいました。両親は重度の障害がある人が暮らす場所は施設以外にはなく、このまま施設での暮らしがずっと続くものと思っていました。 しかし、重度の知的障害のある人が支援を受けながら地域のアパートで一人暮らしをする取り組みがある事を、映画「道草」（宍戸大裕監督）やNPO法人「自立生活企画」（東京都西東京市）との出会いにより知りました。集団生活を送る施設ではどうしても一矢さんのペースで生活することは難しく、もっと自由な生活をさせてあげたいという思いが両親の背中を押しました。そこで2018年8月から地域生活を見据えて、自立生活企画の介護者が週1回施設に出向き、家族と一緒に昼食を共にしながら一矢さんとの信頼関係を築いて行きました。そして2年後の2020年8月、故郷の座間市でようやくアパート生活を始めることができました。

施設での生活が計35年ほどに及ぶ一矢さんにとっては戸惑うことばかりの日々かもしれません。それは、私たち介護者も同じです。ともに悩み、そして楽しみながら手探りの日々を送っています。 そんな一矢さんですが、いたって普通のおじさんです（笑）。ポテトサラダ、ハンバーグ、納豆、たくあん、板チョコ、缶コーヒーや「一本橋」という手遊びが大好きです。もし一矢さんが「一本橋」と言って手を差し出してきたら、それは「友だちになりたい」というあなたへの親愛の証です。ぜひ相手になってください（介護者が遊び方をお伝えします）。一矢さんは平日の日中は作業所で活動していますが、わが家である「かずやんち」（一矢さんはこう表現します）でのまったりとした時間が何よりも大好きです。一矢さんはその時の気分で、部屋で大声を出してしまうこともありますが、この生活を大変気に入っています。私たちはそんな一矢さんをこれからも支え、共に生き、一矢さんの友だちの輪を広げたいと思っています。何かとご迷惑をお掛けしてしまうかもしれませんが、どうか温かく見守っていただければありがたいです。

津久井やまゆり園事件から 10 年、
今年も献花に伺いました。



10 年目の祈り、亡くなられた 19 名の方々に哀悼の意を捧げ、声なき声に静かに耳を傾ける…

今年は事件から 10 年と言う事で、

沢山の報道陣が詰めかける中、

津久井やまゆり園に

献花に伺いました。



献花の花を自ら選ぶ一矢さん



突然の大雨で、献花台が、急遽、体育館に移動、沢山の報道陣に囲まれて献花をする一矢さん。

今回は、一矢さんの実姉、きえ子さんが同行してくれました。

（右から神奈川新聞成田記者、きえ子さん、介護者大坪、一矢さん、朝日新聞森本記者、介護者斉藤）





障害学・国際法学者の長瀬修さん、日本女子大教授の田中恵美子さんも来てくれました。





久しぶりの再会
永井清光園長が
暖かく迎えてくれ
ました。



事件から 10 年を経て、「施設から地域へ」と社会の意識も少しずつ変わって来ているようですが、中々遅々として進まない現状があります。一矢さんも今年で座間市内での地域生活 8 年目を迎えますが、その実践例が後に続く人達の希望となれるように、益々、活動の場を広げて行けたらと思います。これからも暖かい目で見守ってくださるようお願いいたします。



ピアカウンセラーの猿渡達明さん、きえ子さん、一矢さん、介護者大坪、慰霊碑にて

早稲田大学にて社会福祉学の田中 恵美子先生の授業に登壇



6/8 早稲田大学にて社会福祉学の田中 恵美子先生の授業に登壇させていただきました。

事件当時小学生だった皆さんも、自分自身の体験と結びつけながら真剣に考えてくれていました。命そのものを見合っていくコミュニケーションは、AI が益々発達していく中、それだけでは絶対にやり過ごす事の出来ない大切な”意味”や”価値”があると、一矢さんや天畠大輔参議院議員の「あかさたな話法」、新田勲さんの「足文字」などを例にとってお伝えさせていただきました。また大学裏手にある都電にスロープで段差がなく車椅子やベビーカーなども使えるスペースが出来上がっているのは、実は脳性麻痺の新田勲さんの運動があった事などもお伝えしました。事件のサバイバーとして地域で生きる一矢さんの姿を目にして「本当に勇気をもらいました」といった声も頂き、とても良い授業でした。





田中先生、集まってくださった学生の皆さん、ありがとうございました！

埼玉障害者市民ネットワーク　2026 ネットワーク合宿プログラム

「やまゆり園事件より 10 年～世の中は変わったのか？」



6/13 埼玉障害者市民ネットワーク主催の 2026 ネットワーク合宿プログラムに登壇させていただきました。事件後、一矢さんとの出会いから地域移行への動きにつながる関係づくりのプロセスについて、丁寧にお話しさせていただきました。



そして何より、私たちにとって特別な時間になったのは、毎年年末に登壇させていただいている明治学院大学の猪瀬浩平先生のお兄さんの猪瀬良太さん（知的障害、自閉症で一矢さんと同じ年）にお会いできたことです。（写真左から 2 番目、一矢さんと同じ年）良太さんは、映画『急に具合が悪くなる』に登場する自閉症を持つキャラクターのモデルになったそうです。感激！！

ＮＨＫハートネットＴＶ「相模原事件から１０年」
スタジオ出演しました。



ＮＨＫハートネットＴＶスタジオ出演しました。



事件当初から、お世話になっているＮＨＫのハートネットＴＶ、この度、とうとうスタジオ出演の依頼を頂きました。渋谷のＮＨＫ放送センターへ向かう一矢さん。





初めてのスタジオ収録。メークもバッチリで奥津ゆかりさんや奥山佳恵さんに「男前」と褒められて少し照れたように笑っていました。





第１夜　“ともに生きる”　奪われなかったもの



第２夜　“ともに生きる”を考える

配信は終了しましたが、記事、動画としてアップしてくれました。（番組 HP↑）

以前、やまゆり園で一緒だった奥津さんにも再会出来て、とても貴重な体験になりました。ＮＨＫの皆さん、共演者の皆さん、ありがとうございました！



（共演の広瀬雄大アナ、奥山佳恵さん、奥津ゆかりさんと）

「相模原障害者殺傷事件から 10 年　津久井やまゆり園の犠牲者を追悼し、インクルーシブ社会を目指す会」 登壇

主催：DPI 日本会議、全国自立生活センター協議会、
ピープルファーストジャパン、DPI 女性障害者ネットワーク



７・２２参議院議員会館　講堂にて～犠牲者を追悼し、優生思想を許さない！　脱施設とインクルーシブ教育を進めよう！～

「知的障害者の自立生活」と題して、地域で自立生活をしている一矢さんの様子をお話しました。地域のアパートで暮らしたいという本人の意思表示がでるまで２年ほど丁寧に時間をかけたこと。施設外で地域生活にある程度の経験をもった人が実際に関わって本人はもちろん施設の職員とも丁寧な関係作りをある程度やらないと本当の意思をくみ取るのは難しいこと。また、一矢さんの現在にいたるまでの自立生活をアピールして、しっかりした社会的評価が与えられるようにしないといけないとお話しさせていただきました。



その後、集会は日比谷公園から東京駅まで「津久井やまゆり園の犠牲者を忘れないぞ！優生思想を許さないぞ！家族介護に頼らない地域づくりを進めよう！脱施設を、今すぐ進めよう！インクルーシブ教育を実現しよう！」とアピール行進が行われました。事件を風化させず、これからも共生社会、地域生活への理解と共感の輪を広げていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

じぶんぐらしの本



以前、「楽しい生活応援団」ということで、一矢さんの暮らしなど地域で一人暮らしをする知的障害の方の生活を紹介してくれた本を作ってくれましたが、その続編として３名の方(かんちゃん、ひーやん、ゆうくん)の暮らしを紹介した「じぶんぐらしの本」が出版されました。クラウドファンディングで皆さんの協力をお願いし、ようやく形になりました。ご協力ありがとうございました。





ひーやんとカプカプ川和にて

『かんちゃんのばあい』じぶんぐらし絵本シリーズ③
作者:しもおなおこ,たなかえみこ イラスト:ＭＡＳＨＵ
本文は別掲載で「読む」より「見る」絵本。
文字に頼らず伝わる、「かんちゃんの一日」。
くっきりしっかりしたイラストで、かんちゃんの１日を描きました。
文字は全て QR コードに読み聞かせ文として入れました。
読まなくちゃ！
という余計な強迫観なく、読んでもらう、見てわかる絵本です。



書　籍：
ハードカバー版¥2,970（税込）
ペーパーバック版￥1,320（税込）

動画です↑

「私たちのことを私たち抜きに決めないで（Nothing About us without us）」を合言葉に世界中の障害のある人たちが参加し作成された「障害者権利条約」。批准国である日本に対し国連の権利委員会による初めての審査がスイスのジュネーブで2022年8月22日から2日間行われました。権利委員会は「**（やまゆり園）事件を経て、このような施設で暮らす人達が沢山いる事について考え直した事はあるんでしょうか**」と指摘。「障害のない人と平等に施設から地域社会で自立した生活へ移行することを目指し期限付きの数値目標、人材、技術、資金を伴う法的枠組みや国家戦略、その実施のための都道府県の義務付けを開始すること」を求めました。にもかかわらず国による地域移行の現状は年々減速しており、いまもおよそ約13万人が施設で暮らしています。次回の審査は2028年、早急にヘルパーの育成など地域の体制つくりを進め「脱施設化」に向けた動きを実行していく事が求められています。



発行　かずやさんとその仲間たち

〒252-0005
神奈川県座間市さがみ野３丁目２－１９－１０１
メール　kazuya.ono811@gmail.com
Facebook“尾野一矢日記”
https://www.facebook.com/onokazuyanikki

“尾野一矢日記”

ホームページ
“よってけー矢んち”　http://ono-kazuya.com/

“よってけー矢んち”

発行日 2026年８月